



語り合いましょう

親の思い・子どもの思い



…まず自己紹介から…

- P T Aは子育てする時に肩の力を抜いてくれる場所だったなぁと感じています。今も小中学校のP T Aに関わっているお母さんたちと話をしながら、一緒に考えています。
- 小学校5年生、1年生の子どもがいます。今、特にとても悩んでいることはなかったのですが、P T Aのことあまりわかっていなかったのが、これからいろいろ考えていきたいと思っています。
- 今年、小学校のP T A会長を引き受けました。大変な役目を引き受けてしまったと後悔の日々！
- 私も小学校5年生、1年生の子どもがいます。今年初めてP T Aの学級委員をやってみようと引き受けました。
- 小学校6年生の子どもがいます。去年娘がちょっと学校をストライキしました。6年になって学校へ行き始めたのですが、5月にある修学旅行に行きたくないと言っています。去年から学校といろいろ話し合い等をして大変だったのですが、今はP T Aのこと、なかなかできません。今年はP T Aの役員決めがとても大変だったと聞きました。

松戸の「5年間英語」…意図がよくわからない

- 小学校5年生から英語が始まると聞いて、どうなんだろうと不安に思っています。
- 昨日、地域で開かれた教育懇談会に参加して、話を聞いてきました。松戸市では独自の計画を立てましたよね。小学校5年から中学校3年までの5年間で、中学校の3年間でやる英語の勉強をしようというもの。英語嫌いを誘発するのではないかという心配と、先生方に教えるスキルがないというか、英語を教えた体験のない先生がいない上に、松戸市が何を求めて小学校5年から英語を始めるのか、その意図がよくわからない。うちの学校の校長先生は断固反対と言ったらしいのですが、教育委員会は「やることは決まっている」という感じだったそうです。でも先生たちは今までどおりの方針で、楽しく英語に触れるというスタンスで今年に行くと話していました。
- 今既に、外国人の先生が来て、英語学習はしています。時間割に英語の授業としては組み込まれていませんが、総合の時間を使ってやっているようです。それは、全学年でやっています。
- 文科省の新しい学習指導要領では、5年生からの外国語活動が必修化されましたが、それは来年から実施です。その指導要領の先行実施かと思ったら、そうではない。それとは全く趣旨が違っていると教育委員会は言っています。
- それでなくても、授業時間が足りないと言っているのに、これで英語が増えたらどうするんでしょう。今授業時間が増えて、1年生で毎日5時間授業。3年生からは6時間の日もある。
- 何かの時間を削って英語をするのか、それとも今までの総合的学習の時間を使うのか。



《松戸市平成 22 年度教育方針と主要施策より》

「5 年間英語」の段階的導入を図ってまいります。

これは中学校で学習する 3 年分の英語を小学校 5 年生から中学校 3 年生までの 5 年間で学習させようとするものです。換言しますと、平成 23 年度から始まる小学校の「外国語活動」とは一線を画した本市独自の教育戦略でもあります。

誰もが期待に胸をふくらませて始まる英語学習ですが、学習を開始した 2 年後には中学校 3 年生のおよそ 6 割を超える生徒が英語に苦手意識を持つに至っております。この原因には諸説ありますが、その一つに授業の内容に比べて学習量が少ないという平凡な事実があります。

そこで 3 年分の学習を 5 年間で取り組むことにより、学習内容を減らすことなく、何度も繰り返しができる学習を展開し、新しい可能性を切り開こうとするものです。

このような角度から英語教育を見直すことは、全国的にもユニークな試みだと思っています。先行モデルがないだけに、悪戦苦闘することは予想されますが、「22 年度の学校教育の最重点事項」としながら、年次を追うごとに充実させてまいり所存です。

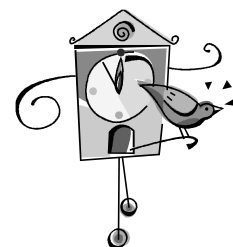
学級に 50 インチのテレビが新しく入りました

- 学級に 50 インチのテレビが新しく入りました。英語を教えるためのセットメニューで出てきたプランみたいで、DVDを見ながら英語の勉強をさせるために入ったらしい。
- 地デジ対応に変更するためでもあるようですけど。
- クラスにおいてある掃除用具がひどくて、柄が取れたチリとりやらほうきやら…。トイレの壁にひびも入っているのに、50 インチのテレビが入る！ どっちが先なのかな？
- パソコンもどんどん新しくなっているし。まだ取り替えなくてもいいような新しいパソコンを「うちに欲しい」という保護者もいるくらい。
- うちの学校は、今年デスクトップ型からノートパソコンに変わりました。そのノートパソコンが 50 インチのテレビに接続されて、クラスで検索するというにも使えるんだそうです。「それより図書館へ行って辞書引いて！」と親たちは言っています。
- 新しい資料を見ることで得るものが大きいからと、先生たちは一生懸命なだめようとしてくれますけど、親たちはいろんな本を読んだり見たりして得るものが大きいということを実体験として学習してきているので、図書館へ行って調べてほしいと思います。
- うちの小学校では、低学年用の図書室と高学年用の図書室と分かれています。教室が余っているので、低学年図書室は充実していていいなあと思います。高学年図書室はちょっと暗闇の中。でも子どもたちは来ています。今年は「家であまっている本を寄附してください」と学校からお手紙が来て、結構本が集まってきました。
- 本は数も大事だけれど、司書の人がいるかどうかでずいぶん違って来る。
- 巡回で司書の人があります。子どもたちが「今日は図書館の先生がいたよ」と言っていますから、子どもとの接触もあるんだと思います。
- 司書の人とのかかわりで、いい本に出会うこともありますから。
- 本を選ぶのにも、専門的な知識を持って選ぶことが大切。そういう質の問題も大事だし、子どもへの働きかけも大事。

英会話を習っている子は楽しくて…

わからない子はどんどん取り残されて苦痛な時間になっていく

- 英語を小学校の時からやってほしいという親の声は多いのでしょうか。
- 私の回りにはいませんねえ。
- 英語の塾に通っている子どもは多いのでしょうか。
- あまり聞かないけれど、ゼロではないでしょうね。



- 中学校1年生で英語が嫌いだと答える子よりも、2年生になって嫌いだと答える率が断然多くなるらしい。どうしてかということやらなくてはいけない量に追いついていないからというのが市教委の見解。それならもっといっぱいやらせる必要があるということで、何度も繰り返しができるように、もっと前からやらせてしまえという発想らしく、それでやってみて英語嫌いが何ポイント下がったのか上がったのかで評価をしていきたいということらしい。でも、みんな嫌いになるだろうと先生たちは危惧している。今の小学校の英語の授業で、日本語のしゃべれない外国の先生が来て、英会話を習っている子どもは先生とコミュニケーションを取れるからとても楽しい。でもまったくわからない子たちは、「何言っているかわからないから、もういいや」と。そういう子どもが半数近くいる。その時点で英語嫌いがインプットされている上に、また勉強して勉強してとやったら更に英語嫌いに拍車がかかるのではないかと、小学校の先生方がとても心配されていました。
- 小学校の英語学習で、疎外されていく子どもがそれほど多いとは思っていませんでした。
- 高学年になると授業の中でやらなければならないことがあるらしく、どんどん進んでいく。わからない子はどんどん取り残されて苦痛な時間になっていく。英会話を習っている子は楽しくて…。子どもの様子を見てると両極端。
- 英語の先生とコミュニケーションを取れる小学校の先生がいなくて、何の打ち合わせもしていないみたい。
- わからないまま進んでいってしまうというのは、英語の授業だけではなく、全教科にもいえるのではないか。わが子が不登校になって、勉強を見てやるようになったら、あまりにも学校の勉強が穴ぼこだらけで唾然としました。それまで学校に毎日行って勉強していたはずなのに、なぜこれほど穴ぼこだらけなのと子どもに聞いたら、「授業出ていても勉強はわからない」と。1年間かけて家で勉強を見てやって、その穴ぼこがようやく埋まって、わが子は学力に自信がついてきた。その自信がついたことで学校に行く気になってくれた。不登校の理由はいろいろあったらうけど、その中の一つに自分の学力が学校のペースに追いついていけないという不安があった。その不安で緊張する。
- ゆとり教育の見直しとって、学習内容がまた一段と盛りだくさんになってくる。限られた時間の中でこなそうとして、更に猛スピードで進められると、ついていけない子どもはもっと出てくるでしょう。
- 「授業を受けていて、なぜその内容が頭に入らないのか」とわが子に聞いたら、「授業中とてもうるさい」と言っていました。私立中学受験のための塾に通っている子は学校の授業はつまらないし、ストレスもたまっているので授業をかき回す。先生も注意するけど、収拾がつかなくて騒々しい。他のクラスでも同じようなことが起きている。
- うちでも同じようなことがありました。先生が「問題を解いて」と言っても、できる子はすぐ解けてしまう。すると教室を歩き出してしまふ。いつもウロウロしている。でも、徐々に収まっていった。いつのまにかその子も落ち着いてきました。先生の働きかけがあったと思うのですが、～したから落ち着いたというような目に見えるものではありませんでした。

先生同士の連携はどうですか？

- 先生たちも今、ごっそり定年退職して、新しい先生が多くなってきている。
- 新卒の先生は、指導の先生がぴったりついていて、初任者研修も年中あって、学校をあけすぎというくらい。教室を離れて、研修センターへ行って何を勉強してきているのだろう。
- 研修で学校をあける時は、教頭先生がクラスに入ります。初任者指導の先生は2校掛け持ちしていることもあって、いつもいるわけではないので、研修で担任の先生がいなくて代わりに入ることはない。
- 学年の先生同士の連携はどうですか？ クラスで何か問題があった時に、学年の先生に相談したり、話し合ったりして、問題を解決してくれるのでしょうか。
- うちの学校は小規模校で職員数も少ないので、先生同士がとても仲がいい。午前中にあったことを、もう昼休みには全部の先生が知っている。校長先生も先生方の井戸端会議の中に入れて、知っている。



- ちょっと落ち着かないクラスがあると、学年主任の先生が気にかけてそのクラスに入ったりしていました。
- 一人ひとりの顔が見える学校であってほしいとずっと願ってきましたが、大規模校だとそれができるのかどうか気になります。

PTAの存在意義

- そこでPTAの存在意義がありますね。クラス替えになって、先生も替わって、そんな時は先生とのコミュニケーションや親同士のコミュニケーションをとるということも学級委員の役割ですね。コミュニケーションが取れていれば、何か問題が起きた時に解決の手だてが見つかるのではないのでしょうか。
- クラスがザワザワして落ち着かない時に、先生にどうかしてほしいというようなことをPTAから先生にお願いしているのですか？
- PTAの運営委員会で、そういう問題を出されるクラスもあります。それで補助教員をお願いするという動きをしました。
- クラスの問題は、クラスの先生・親・子どもたちでどうしたらよいかを話し合っていけるのではないのでしょうか。
- そういう時にPTAの学級委員に動いてほしい。
- 私も会長をしていた時に、学級で何とか先生を交えて話し合いをしてくださいと提言しました。話し合いを重ねながら解決の方向を見つけていきましょうと。PTA全体としては、それくらいしか動けない。でも、その時の話し合いの場に会長として呼ばれたので出席しました。
- 先生も悩んでいる。先生を責めるのではなく、皆で共通の問題として話し合いましたから、クラスの雰囲気はとても良くなりました。
- クラスでいじめがあった時に、いじめられた子のお母さんの呼びかけで懇談会が開かれたのですが、進行の難しさを感じました。いじめられた子のお母さんが、いじめの現実を知ってもらおうとすればするほど、その具体的な内容を列挙せざるを得なくなり、話が解決への方向性を探ろうというものになっていかなかった。共通の問題として話をするという地点にまで到達できなかった。とても知恵のいることだと思いました。だからこそ、一回で終わらせるのではなく、継続して話しあう必要があると思います。
- 保護者会に来られる人が少なくなっています。働いているお母さんがとても増えている。
- 夜に設定しても、夜子どもを家に置いてなかなか出られない。

どのように学校と関わればよいのか

- 息子が小学校1年生の時、不登校になりました。突然ひどい嘔吐と下痢が始まって、「学校が怖い」と。どのように学校と関わればよいのか、とても大きな問題だと思いました。割としっかりとした息子で、勉強についても何の問題もないし、新しい環境に入ったからといってそれほど順応できない子ではない。ちょうど下の子が生まれたという環境の変化もありましたが、先生が1年生でも時間に合わせてできるようにと、とてもスピーディだった。そこにちょっとついていけないようなところがあった。そんな時、教頭先生からは「下の子はどこかに預けて、お母さんが学校についていらしたらどうですか」と言われました。保育園を探しても、すぐに入れるところもなく、無認可の保育所に預けて半年息子に付き添って学校に通いました。もちろん最初は、学校へ行くにも2時間くらいかかって、ついてもすぐに泣き崩れて変えるというようなところからスタートして。2年生になったら、「僕自分で行くよ」となって、ようやく離れられる時期になったのかと思いました。そういうことがあったので、学校と父母の関わりがどういうものなのか、自分としては課題の一つ。うちの学校にはPTAがないので、誰かに相談するとか、共同で子どもの問題を考えると、という場所がない。保護者会では、ベルマークを集めて学校に寄附するとか、お手伝いのような係りがあるだけで、名ばかりの学級長とお手伝いを取り仕切る理事がいるだけ。2年生になって息子がひとりで通え



るようになったので、学級長をやって少し学校と関わってみようと思いました。各クラスから学級長が出て、学校の子どもの問題を把握している学級長さんは皆無です。一年間で「問題が起きたので初めて学校で先生と話し合いました」というクラスが一クラスあっただけです。父母と学校がとても距離が開いていると感じました。

- うちのPTAは、委員になるとその中から誰かが会長にならなければならないので、その責任の大きさにしり込みしてしまう。
- 各委員会の委員長から会長を選ぶの？ 委員長と会長を兼務するんですか？
- だから委員のなり手がいない。そこまでの覚悟はできない。
- 何かあったときに、相談したり、みんなで一緒に考えたりする場がないと苦労しますね。PTAの役割はそこにありますよね。
- PTAがあると、長年の積み重ねで学級PTAが成立しているんですね。だから先生に話したり、同じクラスのお母さんたちに相談したりという雰囲気が出来上がっている。PTAがないと、自分が困った時に先生にすぐ言いに行ってもいいのだろうかとか、先生と話す時も一対一で話して解決するかどうかとか、誰か他のお母さんに話を聞きたいと思ってもそれがうまく出来ない。
- PTAがないということは、縦も横もつながりが絶たれているという状況。
- 私は先生の指導に対して、ウームと首を傾げる、疑問を感じるが多かった。子どもが思い通りにならなかったとしても、そんな言い方をしてもいいのだろうかというような、言葉を選ばない叱り方をしているなと感じました。先生は一生懸命な方なのだけれど、一生懸命であればあるほど、ズレが大きくなる。このことを先生に対して、どのように話したらよいのだろうか。とても難しかった。教頭先生に話をすると、「その話は担任には言わないでください。担任は赴任して一年目で頑張っているところだから」と言われた。先生を守るわけです。でも子どもは非常に傷ついているし、困りました。

子どもが受けている心の痛みの重さは伝えないと…

- うちの学校では、教育相談日というのがあって、学校だよりに記載されています。そこに相談に行ってもいいし、ホットルームという「何でもお話ししていいですよ」というコーナーがあります。そこに「〇〇先生と話したい」という手紙を出すと、返事が来ます。学校の先生たちが立ち上げてくださった場所です。
- 日時が指定された教育相談日では、なかなか相談に行きにくい。
- 学校によっては、前もって電話で連絡すれば相談者の都合に合わせてくれるところもあるようです。
- ホットルームで相談を受けてくれるのは、担任の先生や教務主任、誰でも相談者が指名することもできます。私は、保健室に駆け込んで保健室の先生にいろいろ相談に乗ってもらっています。行けるところがあるというのは、学校から説明はなかったのですか。
- 年に1回、スクールカウンセラーの先生が市の小学校を回るんだそうです。一般の保護者には知らされていません。問題があるとわかっている子どもに関してだけ、教頭先生から「スクールカウンセラーが来るのだけれども相談してみますか」と言われる。
- スクールカウンセラーも必要だとは思いますが、「なぜ子どもが学校に行かないのか」という根本を考えずに、対処療法的なことばかりする。学校がその子どもと向き合っ、問題を解決していこうという姿勢が全く感じられない。先ほどの学校のように、どの先生に話してもOKなんていう学校はないと思います。
- ホットルームは、親だけではなくて、子どもが苦情・要望も手紙に書いて出すことができる。「マラソン大会をやめてください」とか「嫌いなものを給食に出さないでほしい」とか。子どもも大人も活用しています。先生たちもお話をよく聞いてくださいます。話を聞いてくれるといいですよ。
- 私は、家庭訪問を3軒合同でしてもらいました。子どもが先生から言葉の暴力を受けているけれど自分からは直接先生に話ができないから言ってほしいと、他のお母さんから相談を受けたので、それなら合同で家庭訪問をしてもらおうと先生にお願いしました。そして、その場でやんわりと先生に理解を求めたら、先生はわかってくださった。先生が何気なく使っている言葉で子どもが心を痛めているということは、言わなければならないと先生もわからなくなる。



- 子どもが受けている心の痛みの重さは伝えないと。卒業するまで子どもに我慢しろとは言っていない。
- 学校で子どもたちがどのように過ごしているか、知るという機会がない。親は学校に行かないし、問題がある場面に直面しないし、子どもはそれほど多くは語ってくれないし…。なので、どこに問題があるのかは行ってみないとわからない。授業参観では、「なんていい先生」と思ってしまう。
- P T Aの用事で学校へ行って、校内放送の内容を聞いているだけで、今どういう方向性なのか垣間見える。しゃべり方一つで管理的なのか、自由な雰囲気なのか、わかる。
- P T Aの委員をすると学校の状況はよく見えてきますね。
- 学校の状況が見えてくると、子どもが理解できる。こういう状況の中で頑張っているんだとか。
- 学校の状況がわからないと、「みんなは学校へ行っているのだから、あなたも行きなさい」と言ってしまふ。「無理しなくていいよ」と言えない。それに気がつくまで1ヶ月くらいかかりました。高学年でも子どもは自分の置かれている状況を客観的に説明することは難しい。なんとなく体調が悪いという形でシグナルを発する。子どもは今の自分の気持ちやコンディションをなかなかうまく言えない。親は推測するしかなく、全体像を把握するのに時間がかかる。